

## 東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センター

×

## 京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM

## ジョイント・セミナー

「学習指導要領改訂期の課題と展望～パフォーマンス評価の可能性～」  
実施の様子

教育学研究科 教育実践コラボレーション・センター E.FORUM では、2016年11月6日(日)に、東京学芸大学教員養成カリキュラム開発研究センターとの共催で、東京学芸大学教職大学院棟1階講義室においてジョイント・セミナー「学習指導要領改訂期の課題と展望～パフォーマンス評価の可能性～」を開催しました。当日は、主に関東近郊の会員の方を中心に、教職員や教育委員会関係者、大学教員など総勢38名の方々にご参加いただきました。以下、当日の様様をご報告いたします。

## ● オープニング&amp;自己紹介

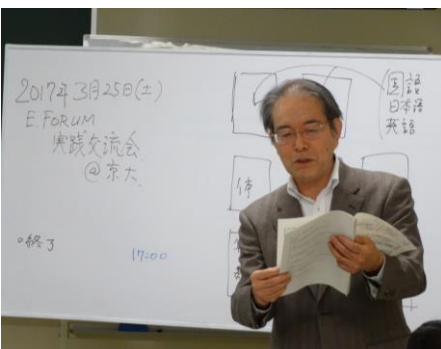
はじめに金子陽子教諭(新宿区立東戸山小学校)による趣旨説明の後、参加者の自己紹介などがありました。

## ● 講義&amp;ミニ・ワークショップ

続いて、講師の西岡加名恵准教授(京都大学大学院教育学研究科)より、講演&ミニ・ワークショップを提供しました。講演では、次期学習指導要領に関わるキーワードについて解説しました。ミニ・ワークショップではパフォーマンス課題の作り方について説明した上で、教科ごとのグループに分かれて実際にパフォーマンス課題作りに取り組んでいただきました。その後、西岡准教授よりルーブリックなどの説明を行いました。



## ● クロージング



三石初雄教授(帝京大学教職大学院、元・東京学芸大学)より本セミナーの総括がありました。最後に研修評価アンケートにご記入いただき、盛会のうちに終了しました。

## 【本セミナーに対する評価】(回答者 31名)

とても 価値がある	価値がある	どちらとも いえない	あまり 価値がない	まったく 価値がない
24人	7人	0人	0人	0人

## &lt;参加者の声&gt;

- ・「パフォーマンス評価」についてこの会で初めて知りましたが、初任者の私でもわかる部分が多かったです。…「本質的な問い」や「永続的理解」を教師が意識していくこと、それを踏まえたパフォーマンス課題を設定していくことは、これから必ず必要になり、重要なことだと感じました。
- ・理論的なものを学びつつ、自分自身で体験できるのは有意義だった。また、グループごとの話し合いでは同じ単元の授業ながら、「本質的な問い」の設定の仕方が異なっていて、話し合う意味を感じながら参加できました。
- ・なかなか京都まで行くのが大変だが、今回は東京でやっていただいたのでありがたかった。